

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第4回「原子炉における機構論的限界熱流束評価技術」研究委員会
開催日時	2020年11月30日(火)13:30~17:00
開催場所	Webexによるオンライン会議
参加人数	22名(大川主査、森幹事、坂下委員、伊藤委員、劉委員、高瀬委員、上遠野委員、成島委員、塚田委員、高野委員、古谷委員、新井委員、牧野委員、小林委員、笹川委員、小宮山委員、小瀬委員、上澤委員、小泉委員、吉田幹事、小野幹事、【オブザーバー】池田氏(日立))
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3回議事録確認を行った。主査、幹事、委員の確認・承認を得た。</li> <li>2. 高瀬委員から、「相変化を伴う気液/固液二相流シミュレーションの紹介」があった。高瀬委員の最新の研究に基づき、RPIモデルに関する解説と計算例の紹介があった。また、原子炉における相変化を伴う解析事例について紹介があり、最後に相変化シミュレーション技術についての問題提起がされた。</li> <li>3. 伊藤委員から、「沸騰現象のCFDにおける課題と現状」について報告があった。沸騰の発泡から合体泡の生成までに着目して、様々なスケールの解析手法について説明があり、それぞれの解析手法におけるCHF予測の課題について述べられた。結論として、核生成から燃料集合体における二相流について網羅できる解析手法は確立されていないと述べられた。</li> <li>4. 小瀬委員から、「沸騰現象の直接数値シミュレーションにおける現状と課題」について報告があった。沸騰現象の予測手法について、過去の沸騰解析にかかわる研究事例のレビューがあり、核生成、気泡生長、温度場の影響、マクロレイヤーの考え方をういた計算手法について課題が提起され、そのうえで今後の展望について報告があった。</li> <li>5. 2021年春の年会・企画セッションでの発表について、吉田幹事から説明があった。中身については、本日報告(解析技術)について3件(吉田幹事、伊藤委員、小瀬委員)の報告を行う予定である。</li> <li>6. 今後の進め方について、小野幹事より最終報告書のイメージについて共有した。報告書作成のスケジュール感としては、本委員会の活動が2022年の12月まで延長見込みのため、2年間で報告書を作成するイメージとし、次回委員会のところで役割分担を決めるとした。</li> <li>7. 次回開催は4月中旬から5月連休前の中で日程調整を行うこととし、次回についてもウェブ開催とすることとした。次回の議題は、「最新の実験技術」についてであり、新井委員と上澤委員に報告をお願いした。</li> </ol>
備考	